

健康登山53:周辺の山26 (湖南 菩提寺山&十二坊山)

コース	JR石部駅 4.1km/61	西応寺 0.9km/43	菩提寺山 0.2km/6	展望岩
	1.1km/29	みどりの村東口バス停 4.0m/60	榎橋 3.2/72	十二坊山
	1.9km/28	十二坊温泉 0.7km/10	磨崖不動明王尊 3.8km/53	JR甲西駅
水平距離	19.9km			
水平換算距離	18.1km			
累計高低差	登り665m、下り652m			
標準歩行時間	6 : 02			
実績歩行時間	6 : 05			
		断面図		



山行報告

山行日 2010・2・4 (木) 天候 晴時々曇り 参加者 9名

行動 京都駅8:07 石部駅9:04 廃少菩提寺9:47 西応寺9:58 菩提寺山(昼食)11:02~11:33 展望岩11:42 バス道12:09 齋神社12:33 榎橋13:13 十二坊山14:24 十二坊温泉15:06 磨崖不動明王尊15:15 甲西駅16:09 京都駅着17:27

記録

雨天で3ヶ月ぶりの健康登山だったが、冬晴れの日には好展望の湖南の里山二山を歩いた。石部駅へ向う車中から近江富士(三上山)と甲西富士(菩提寺山)が並んで見えた。石部駅から北にある菩提寺山に登るのだが、野洲川を渡るために中郡橋まで迂回しなければならない。菩提寺山の山裾に廃少菩提寺の石塔があり、そこから10分ほどで西応寺に着く。よく手入れされた美しい庭園を拝観させてもらった。お寺の方が菩提寺山の登り口を教えてくださいました。よく踏まれた谷沿いの道を登ると稜線の鞍部に出る、南峰には祠があり、北峰には三角点がある。北峰で昼食後、巨岩が林立する展望岩を経てみどりの村東口バス停付近に出た。ここから約4kmの車道歩きとなる。幸い一部を除いて歩道が整備されており、また交通量も多くないので救われる。途中にある齋神社に立ち寄った。一時間ほどかかったが、十二坊山の登り口である榎橋についた。正福寺林道起点の表示があった。十二坊山は林道歩きだが、林道入口にはしっかりした車止めがあるので安心して歩ける。途中にある283.6mの四等三角点に立ち寄った、電波塔が林立する十二坊山が見えた。そこから1.5km進むと十二坊林道の分岐があり、やがて十二坊山に着く。山頂には二等三角点があり360度の展望が楽しめる。ここからの見晴らしは一級品である。あづまややトイレも整備されていて、大谷林道を2km下ると十二坊温泉もありシーズン中であれば多くの人で賑わうのだと思われる。私たちは温泉に入浴後バスで下山するか、磨崖不動明王尊を見た後歩いて下山するかを諮ったが後者を選んだ。磨崖仏は十二坊温泉から車道を下り標高185mのところにあった。高さ4m×幅2mの大きな像で道路からでもはっきりと見える。その後、岩根集落へ下り甲西大橋を渡って甲西駅へ向った。

周辺の山（湖南 菩提寺山&十二坊山）



中郡橋から
菩提寺山
9:22



野洲川と
十二坊山
9:22



廃少菩提寺の
多宝塔
9:48



西応寺の
庭園拝観
10:03



菩提寺山の登り
10:34



展望岩の風景
三上山と比良山
11:46



十二坊山の登り
13:46



十二坊山頂上
三角点を囲んで
14:24



磨崖不動明王尊
15:15



甲西駅へ向う
正面が菩提寺山
15:39

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：湖南 菩提寺山&十二坊山）

参考資料 京都滋賀南部の山、ホームページ他より

◎ 菩提寺山：353,3m。三等三角点。

「甲西富士」とも呼ばれる。近江富士(三上山)の南側に位置する。名神高速菩提寺PAの目前に山容がある。よって名神高速を挟み二つの富士が対峙する。甲西富士は、野洲川越しに見ると東西にすそ野を長く伸ばし美しい富士形に見える。奈良時代には、山中に三十六坊の堂坊を持つ「少菩提寺」があったことが山名の「菩提寺山」の由来だといわれています。また寺山とも呼ぶ。里人は雨乞いの山「竜王山」と呼んでいる。頂上南の南峰に小さな祠があり、奥の院があったところという。甲西町の北隣りは竜王町で、この辺りは竜王山と名がつく山が多いという。野洲側の桜山の里からは、「桜山」とも呼ぶ。

【展望】

山頂北の展望岩はコメ相場の旗振りのあった場所で近江富士が目前にあり、左から鏡山、太郎坊、中央手前に雪野山、右に鈴鹿連山の御池岳の展望がある。

山頂から東方に十二坊（岩根山）が見える。

北西の切り開きから南鈴鹿の油日岳、那須ヶ原山、高畑山、鈴鹿峠の三子山さんしやまの三つの三角形が望まれる。

◎ (廃)少菩提寺：興福寺の別院として731年良弁によって創建された大寺院。

聖武天皇以降歴代天皇の勅願所となっていた。

金勝アルプスの「金勝寺を大菩提寺」と呼んだに対して、少菩提寺と呼ばれていたが、元亀元年（1570）織田信長の兵火に遭い廃寺となる。今は山麓に石垣や石仏などを残すのみとなっている。

◎ 西応寺：少菩提寺三十六坊の一つ当時の「禅祥坊」が前身の「西応寺」に現存する1492年の古絵図に七堂伽藍が整い三十六坊を数えた堂坊が描かれている。石造多宝塔(仁治2年/1241,重文鎌倉)。地藏尊三体像(鎌倉初期及び南北朝)。庭園は自由散策可。山を借景に巨石を配した枯山水庭園。(要志納金)西応寺境内の白壁のお堂の横(左手奥)から菩提寺山の登山道「西応寺ルート(30分)」があり山頂のすぐ南に続いている。

◎ 菩提禅寺：1723年隠元の法孫「道律」によって創立。(黄檗宗)

廃少菩提寺の遺産が、残されているお寺。石仏、石造多宝塔(重文)など。

本尊：阿弥陀如来立像(重文/平安)桧材、寄木漆箔造り。(拝観要予約)

◎ 十二坊(岩根山) : 405.1m二等三角点 (点名は岩根村)

この辺り一帯は仏教修行の道場として栄えていたといわれ、薬師如来を守護する十二神将に因んで十二の坊舎が建てられ、「善覚坊、中立坊、角起坊、岩蔵坊、持蓮坊、宝泉坊、角心坊、善明坊、浄心坊、大門坊、宝乗坊、宝蔵坊」の十二坊が山頂付近に軒を連ねていたと、天正期(十六世紀)の記録にあり、その十二坊が山名の由来とされる。

西側を除き展望がある。三角点山頂から、繖山、雪野山、太郎坊、伊吹山、霊仙山、鈴鹿山系、少し移動して展望台から湖南の里山(烏ヶ嶽、飯道山、大納言、阿星山、竜王山)、比良連峰、湖北の山並みが眺望できる。

湖南アルプスの太神山系と同様この山も八世紀ごろまでヒノキ等の原生林であったが、平城京、東大寺、延暦寺、安土城など、造営、建立、築城のためすっかり伐採され、山が荒れてしまった。明治16年から砂防工事、大正時代に植林が終り、今日の緑の山となった。しかし5本の林道があり昔の山道はほとんど消えている。

◎ 磨崖不動明王尊(車谷不動) : 高さ 6,2m 幅、約 2m の自然石に像の高さ 4,25m、肘幅 2,1m、宝剣の長さ 2,3m の江戸時代の不動明王が彫られている。
(花園林道沿い)

◎ 正福寺林道 : 阿星山への舗装された林道登山道、さくら並木になっている。

◎ 善水寺^{ぜんすいじ} : 本堂は国宝。本尊木造薬師如来像(重文秘仏)
奈良中期和銅年間(708~714)に法相宗の道場として創建され、和銅寺と称された。平安初期、最澄によって中興され天台宗に改め比叡山の別院として栄えた。桓武天皇が病気になられたとき、この寺に湧き出る清水を祈祷し献じたところ病が平癒した。これにより「岩根山医王院」の号を賜り、寺名を善水寺と改めたと伝える。南北朝時代に大火に遭い、全て焼失。貞治3年(1364)に現在の本堂が再建された。元亀2年(1571)の信長の兵火を浴びたが本堂だけが、焼け残った。
阿星山山麓の長寿寺、常楽寺とで、湖南三山の一つに数えられている。

◎ 齋神社^{いつき} : 湖南市菩提寺。JR石部駅から野洲川の中郡橋を渡って突き当り、県道27号線沿いにある。

「源氏物語」に登場する齋王一行が、伊勢に行く途中、この地に泊まったところと伝える。600人ほどの一行が泊まれる台地(場所)が必要であった。
京都➡勢多➡甲賀➡垂水➡鈴鹿➡一志➡齋宮➡伊勢。5泊6日の道のり。

創建は670年頃、731年建立、1728年再建。 祭神：月読尊、大日靈尊。
しだれ桜が有名、ヒガンサクラの大木もある。

- ◎ 和田神社：731年の建立。祭神：牛頭天王(素盞烏尊)
少菩提寺開基のとき勧請された。神社名は、焼失したのち復興に尽力された和田翁に因んでつけられたという。
神社境内2基の燈籠のところから、菩提寺山南方につながる登山道がある。

- ◎ 八王子神社：場所は甲西町、菩提寺西交差点北の阿弥陀寺の西隣りにある小さなお宮。
「素盞烏尊」の八人の御子を祀る。
石鳥居の柱は珍しい六角柱で室町時代と推定されている。
石燈籠は南北町時代のもので国の美術工芸品に指定されている。
浅神社奥の七重の石塔（市重文）
八王子神社は廃菩提寺守護社三社(斎神社、和田神社)の一社として創立されたという。(西応寺古絵図)
元々は雨山の麓辺り、後に八王子村(現在のサイドタウン)に移り、度重なる土砂崩れで現在地にうつされた。

- ◎ 正福寺：聖武天皇の勅願により、「良弁」が開山したと伝える浄土宗寺院。
平安期にかけ隆盛をほこっていた。2度の火災に遭うが、木造大日如来坐像、木造十一面観音立像は残った。
境内に並ぶ石仏を取り巻くサツキやツツジの花群は有名。

近くに、西正福寺城跡（寺の北西、主曲輪と土塁）、東正福寺城跡（寺の南東、曲輪と土塁）の二つの城跡がある。
（室町時代、青木氏の城と伝えるが、永巖寺関連遺跡とも考えられている）

- ◎ 良弁（ろうべん）：689～773。東大寺の開山。幼少のとき、近江で母が目を離した隙に驚にさらわれ、奈良二月堂の杉の木に引っ掛かっているのを助けられた。30年後母と再会している。聖武天皇に崇敬され紫香樂宮遷都にも関与している。